

社団法人 地盤工学会
基 準 部 会
 平成 22 年度第 1 回 議事録

担当 仙頭紀明（幹事）

日時	平成 22 年 4 月 12 日（月） 14：00～17：00					場所	地盤工学会 会議室	
★部長	高橋 邦夫	○	理事	江藤 芳武	○	幹事	仙頭 紀明	○
部員	伊貝 聡司	○	部員	長田 昌彦	○	部員	川崎 了	×
部員	岸田 潔	×	部員	関野 武志	×	部員	豊田 浩史	○
部員	西岡 英俊	×	部員	平井 貴雄	×	部員	利藤 房男	○
オブザーバー	寺本 邦一	×	オブザーバー	坂井 宏行	○			

★：H20 年度新任 ○：出席予定 ☆：出席（電子会議） ◎：代理出席 ×：欠席予定 △：未定

配 付 資 料

資料番号	資 料
資料-22.1.0	平成 21 年度 第 6 回基準部会議事録案
資料-22.1.1	地盤調査規格・基準委員会 WG5 メンバー表
資料-22.1.2	ISO 活動の継続的な維持のための方策についての提案書
資料-22.1.3	WG10：「土質試験 基本と手引き」改訂編集 WG の延長とグループリーダーの変更
資料-22.1.4	JIS 標準貫入試験に関する全地連への検討依頼
資料-22.1.5	理事会報告資料 [3/19 議事録案]
資料-22.1.6	ISO 国内委員会報告資料 [3 月 12 日議事録案]
資料-22.1.7	ISO 投票に関する日本工業標準調査会からの注意喚起文書
資料-22.1.8	会員からの質問に対する対応－室内試験関係，粒径幅に関して
資料-22.1.9	
資料-22.1.10	
資料-22.1.11	
資料-22.1.12	
資料-22.1.13	
資料-22.1.14	
資料-22.1.15	
資料-22.1.16	
資料-22.1.17	
資料-22.1.18	
資料-22.1.19	
資料-22.1.20	
別添資料－1	
別添資料－2	

1. 前回議事録の確認 (資料-22.1.0)

一部修正の上、承認された。

2. 全体関係

特になし。

3. 委員等の異動

理事会報告 (1) 室内試験規格・基準委員会 幹事の構成

- ・ 畠山 正則 氏 (応用地質 (株)) : 委員から変更
 - ・ 豊田 浩史 幹事 (長岡技術科学大学) : 継続
- 理由 : 川崎幹事任期満了に伴う交代。

上記幹事の構成を承認した。

理事会報告 (2) 地盤調査規格・基準委員会 WG5 メンバーの追加 (資料-22.1.1)

- ・ 安藤 千尋 氏 (地盤の平板載荷試験担当)
- ・ 阿部 求 氏 (孔内水平載荷試験担当)

理由 : 今年度からの、地盤調査の方法と解説の執筆に必要な人材である。

上記委員の追加を承認した。

理事会審議 (3) ISO 国内委員会 委員長の交代

木幡行宏委員長から大谷順委員長への交代を承認した。

理事会報告 (4) ISO 国内委員会 委員の退任

- ・ 土谷 尚 委員 (基礎地盤コンサルタンツ (株))
- ・ 勝見 武 委員 (京都大学)

理由 : 一身上の都合により (勇退)

理由 : 担当する案件が、ISO 国内委員会での議論の段階ではないため。

上記委員の退任を承認した。

(5) ISO/TC190 /SC3/WG10 運営 WG メンバーの追加

- ・ 藤田 毅 氏 (日立製作所中央研究所)

理由 : 英国から提案されてくるイムノアッセイによるスクリーニング案の対策のため。場合によっては、日本国内の独自技術の提案もするようになるため、国内での準備にも事前着手しておく必要があるため。資料参照。

略歴 : 日立製作所中央研究所に入社以来、生体細胞のモニタリング方法をご研究で、機械工学のご出身ながら現在は生化学をご専門にしておられる。生化学的な物質検出が現在のお仕事であるが、バックグラウンドが機械工学であることから、分析機器の装置化については、核心の最先端技術をその分野でけん引しておられる。この研究の一環としてイムノアッセイをツールとしてご研究になった経緯があり、英国が同案を提案してくる予定であることから、相当に高度な判断が必要になると考え、とくにお願いいたします。

- ・ 石井 誠治 氏 (共立理化学研究所)

理由 : 油分検出法およびテスト・キットによる可視/紫外吸光光度検出法の日本国内の技術元。これらの技術の ISO 化のため、国内審議の代表として参画していただく必要があるため。資料参照。

略歴 : 共立理化学研究所に入社以来、水質分析向けのテスト・キットの開発に従事。メジャーな無機イオンについてはそのほとんどを可視/紫外吸光光度検出できるテスト・キットを製品化。従来は、この種の方法では比色表による目視照合が基本であったが、LED を応用し、固定波長での簡易吸光光度検出に成功、検出器を乾電池駆動による超小型化した実績をお持ちです。テスト・キット法の分野では、第一人者。

上記委員の追加を承認した。

- ・ 今井 一成 氏 (日立ハイテクノロジーズ) **メール審議済み**

理由 : ISO 案の日本提案 (土壌中の油分の比濁検出法) にあたり、規格案の作成や提案先の ISO/TC 190/SC 3/WG 10 (予備試験法) で規格化作業に参画していただくため。

略歴 : 同氏は日立製作所に入社以来、分析機器の研究開発および設計に携わってこられ、光学系および検出系に通じておられるほか、これまで手分析であった各種分析機器を自動化された経歴をお持ちの方です。とくに、連続流れ分析法 (フローインジェクション分析法) は、同氏によってはじめて商業化されたもので、分析化学の実用化についても、尽力され

たこの分野の第一人者です。

・ 本田 俊哉 氏（日立製作所）**メール審議済み**

理由： ISO 案の日本提案（土壌中の油分の比濁検出法）にあたり，規格案の作成や提案先の ISO/TC 190/SC 3/WG 10（予備試験法）で規格化作業に参画していただくため。

略歴：熊本大学薬学部助教授を経て日立製作所入社，分析機器の研究開発および設計に携わってこられた。医薬品や環境試料を中心に，有機分析法の開発と有機分析機器のシステム化に尽力され，分析化学におけるスクリーニングの概念にも精通，化学分析とスクリーニングのとの関係についてもよく整理をしておられる。実用に耐えうる有機分析の構築を目指し，日本分析化学会関東支部副支部長もつとめておられる。

4. ISO国内委員会 関係

理事会報告 (1) ISO 活動の継続的な維持のための方策について (資料-22.1.2)

民間2社から ISO/TC 190 の活動に対し醸金の申し出についてオブザーバーの坂井氏より説明があった。ISO 活動を継続して維持するためには，醸金は有効な方策であり，受け入れる方針を承認した。学会として醸金の受け入れに関する経理上の事項は総務部で検討いただくこととする。

5. 地盤工学表記法委員会 関係

特になし。

6. 室内試験規格・基準委員会 関係

理事会報告？ (1) WG10：「土質試験 基本と手引き」改訂編集 WG の延長とグループリーダーの変更

同書は教科書としての利用実績が多いことに鑑みて，増刷時のミスプリント等の修正に対応するため，1年間の WG 活動の延長を承認した。加えて，グループリーダーの変更（安川郁夫委員→大島昭彦委員）を承認した。

(資料-22.1.3)

7. 地盤調査規格・基準委員会 関係

(1) JIS 標準貫入試験に関する全地連への検討依頼 (資料-22.1.4)

JIS 標準貫入試験の改定の影響がもっとも大きくなるのは全地連である。そこで改定案に対して意見をいただくため，地盤工学会会長名で全地連会長宛ての依頼文を送付することとなり，その依頼文を承認した。

8. 地盤設計・施工基準委員会 関係

特になし。

9. 販売促進 WG

特になし。

10. 基準部所管刊行物

特になし。

11. その他

特になし。

報告事項

1. 理事会（3月19日）開催報告 (資料-22.1.5)

基準部関連事項について江藤理事より報告があった。標準キーワード廃止に伴い，標準用語が会員および関係各部に速やかに周知され，利用していただけるように，表記法委員会で今後対応いただきたいとの意見が出された。

2. 全体関係

3. 部会・委員会関係

(1) ISO 国内委員会

理事会報告 ① 平成 22 年度 ISO 対応活動費の資金援助要請に関する経過報告

(相手先)	(金額)		報告書の有無	(納期)	
	助成	受託			
・沿岸開発技術研究センター	×				

・土木学会	×				
・三菱総合研究所（回答作成）	60万円		○		
・三菱総合研究所（重点TC旅費）	485万円 ※				※ 現時点では 申請総額
・経済産業省		320万円	○		
小計	545万円	320万円			
合計	865万円				

② H21 第4回委員会（3月12日開催）報告等 **（資料-22.1.6）**

③ ISO 投票に関する日本工業標準調査会からの注意喚起 **（資料-22.1.7）**

Pメンバー国別投票不履行（2件）に対する注意喚起と再発防止の検討依頼が経産省よりあったことが報告された。後日の調査で、時間的な行き違いがあり実際は投票していたことも報告された。

(2) 地盤工学表記法委員会

特になし。

(3) 室内試験規格・基準委員会

①会員からの質問の回答

（資料-22.1.8）

均等係数 U_c と曲率係数 U_c' の取り扱いに関する質問と回答が豊田委員より報告された。

(4) 地盤調査規格・基準委員会

特になし。

(5) 地盤設計・施工基準委員会

特になし。

(6) 販売促進 WG

特になし。

4. 日本工業標準調査会 土木部会

3/11 開催の土木部会について利藤委員より報告があった。地盤関連では、巻内委員から木幡委員への交代が報告された。

●H22 年度 基準部関係委員会開催状況

委 員 会 名		委員会開催日, 太字は次回開催日
基準部会	高橋邦夫	4/12
ISO 国内委員会 ・WG1 ISO/TC182 対応 ・WG2 ISO/TC190 対応 TC190/SC3/WG10 対応 WG ・WG3 ISO/TC221 対応	木幡 行宏 (代行: 木幡) 平田 健正 (坂井宏行) 三木 博史	6/17 6/17 4/27(幹事会) 4/15
室内試験規格・基準委員会 ・WG1 物理特性 (土と岩) ・WG2 化学特性 (H17 化学試験) ・WG3 透水・圧密特性 ・WG4 力学特性 (土と岩) ・WG5 安定化・締固め特性 ・WG6 ジオシンセティックス ・WG8 特殊土 ・WG9 ベンダーエレメント試験基準化検討 ・WG10 「土質試験-基本と手引き-」改訂編集 WG ・WG11 赤本改訂版の総説執筆に関する WG ・WG12 動的試験基準検討 WG	古関 潤一 古河 幸雄 川地 武 大島 昭彦 龍岡 文夫 北詰 昌樹 木幡 行宏 三浦 清一 山下 聡 安川 郁夫 後藤 聡 伊藤 洋	
地盤調査規格・基準委員会 ・WG1 物理探査・検層 (第3編) ・WG2 ボーリング・サンプリング (第4,5編) ・WG3 地下水 (第7編) ・WG4 サウンディング (第6編) ・WG5 载荷試験 (第8編) ・WG6 現場密度試験 (第9編) ・WG7 現地計測 (第10編) ・WG8 環境化学分析のためのサンプリング (第11編) ・WG9 地盤調査の計画, 資料調査・地質調査 (第1,2編) ・WG10 地盤環境調査 (第12編) ・WG11 スウェーデン式サウンディング試験方法改正 ・WG12 貫入式地盤硬度計基準化	谷 和夫 松島 潤 曾根田正俊 中村 裕昭 田中 洋行 細野 高康 三嶋 信雄 上野 将司 平田 健正 木谷日出男 稲垣 秀輝 藤井 衛 北村 良介	5/11 5/11
地盤設計・施工基準委員会 ・WG1 土構造物 ・WG2 杭の水平载荷試験 ・WG3 グラウンドアンカー ・WG4 サンドコンパクションパイル工法 ・WG5 地山補強土	北詰 昌樹 本城 勇介 中井 正一 山田 浩 寺師 昌明 龍岡 文夫	
地盤工学表記法 ・WG1 用語および用語の定義 ・WG2 データシートおよび情報化	岸田 隆夫 岸田 隆夫 (鈴木明夫)	

5. その他

1) 理事会（平成22年 4月23日（金）開催予定）への審議事項・報告事項

2) 総務部会（平成 22 年 5 月 7 日（金）開催予定）への提案事項

3) 次回以降の部会開催日

- ・ 22 年度第 2 回：平成 22 年 月 日（ ）14:00 時～
（対応理事会 H22. 5.14 or 7.23）
- ・ 22 年度第 3 回：平成 22 年 月 日（ ）14:00 時～
（対応理事会 H22. 7.23 or 9.24）
- ・ 22 年度第 4 回：平成 22 年 月 日（ ）14:00 時～
（対応理事会 H22. 9.24 or 11.26）

☆ 平成 22 年度 理事会・運営連絡会議 開催日程（予定含む）

◎理事会

○ 運営連絡会議

① 4 月 23 日（金）

② 5 月 14 日（金）

③ 5 月 27 日（木）総会/理事会

① 6 月 25 日（金）

④ 7 月 23 日（金）

⑤ 9 月 24 日（金）

② 10 月 22 日（金）

⑥ 11 月 28 日（金）

③ 12 月 24 日（金）

⑦ 1 月 28 日（金）

⑧ 3 月 18 日（金）

④ 2 月 25 日（金）

⑨ 4 月 22 日（金）

⑩ 5 月 13 日（金）

⑪ 5 月 30 日（月）総会/理事会